

著者紹介（＊は編者，執筆順。①所属，②生年，③経歴，④主要業績）

＊山口航（やまぐち わたる） 【まえがき・序章・第5章・第6章】

- ①帝京大学法学部准教授・東京科学大学未来社会創成研究院特定准教授
- ②1985年生
- ③同志社大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学 博士（政治学）
- ④『冷戦終焉期の日米関係——分化する総合安全保障』（吉川弘文館，2023年，第40回大平正芳記念賞，第9回猪木正道賞正賞受賞）
『日米首脳会談——政治指導者たちと同盟の70年』（中公新書，2024年）
『日本外交の論点〔新版〕』（共編著，法律文化社，2024年）

池宮城陽子（いけみやぎ ようこ） 【第1章】

- ①東京科学大学リベラルアーツ研究教育院特別研究員
- ②1983年生
- ③慶應義塾大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学 博士（法学）
- ④『沖繩米軍基地と日米安保——基地固定化の起源1945-1953』（東京大学出版会，2018年，第4回猪木正道賞奨励賞受賞）
「米海兵隊の沖繩移駐決定過程，一九五三——一九五五」『法学研究』第94巻第2号（2021年）
「1957年岸訪米と沖繩返還問題をめぐる日本外交」『防衛学研究』第71号（2024年）

藤田吾郎（ふじた ごろう） 【第2章・第3章】

- ①早稲田大学政治経済学術院講師
- ②1988年生
- ③早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程修了 博士（政治学）
- ④「『芦田書簡』の再検討——有事駐留構想と警察改革の連関を中心に」『国際政治』第207号（2022年，第15回日本国際政治学会奨励賞受賞）
「日本占領末期における治安機構統合問題——1951-1952年」『年報政治学』2022-II号（2022年）

野添文彬（のぞえ ふみあき） 【第4章】

- ①沖繩国際大学法学部教授
- ②1984年生
- ③一橋大学大学院法学研究科博士課程修了 博士（法学）
- ④『沖繩返還後の日米安保——米軍基地をめぐる相克』（吉川弘文館，2016年，第2回猪木正道賞奨励賞，第38回沖繩研究奨励賞受賞）

『沖縄県知事——その人生と思想』（新潮選書，2022年）

『大田昌秀——沖縄の苦悶を体現した学者政治家』（中公新書，2025年）

本多倫彬（ほんだ ともあき）

【第7章・第8章】

①中京大学教養教育研究院准教授

②1981年生

③慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程修了 博士（政策・メディア）

④『平和構築の模索——自衛隊PKO派遣の挑戦と帰結』（内外出版，2017年，2018年度最優秀出版奨励賞（佐伯喜一賞），グローバル・ガバナンス学会奨励賞受賞）

「民主党政権による国際平和協力の再評価」『年報政治学』2020-I号（2020年）

『アジアからみるコロナと世界——我々は分断されたのか』（共編著，毎日新聞出版，2022年）

中村長史（なかむら ながふみ）

【第9章・第10章】

①共立女子大学国際学部専任講師

②1986年生

③東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学 博士（学術）

④「出口戦略研究の現在——必要性・困難性・可能性」『国際安全保障』第51巻第1号（2023年，2023年度『国際安全保障』最優秀新人論文賞受賞）

『ウクライナ戦争とグローバル・ガバナンス』（共編著，芦書房，2024年）

『国際社会の紛争解決学』（共編著，法律文化社，2025年）